主催者挨拶　済生会理事長　炭谷茂氏

済生会理事長の炭谷でございます。本日は、私ども済生会が毎年度1回行っております生活困窮者問題シンポジウムが、今回はこれまではなかった、三重県様、また伊勢市様と一緒になってこのようなかたちで行われる。内容も非常に充実したものです。11回経ちますが、このような充実したシンポジウムを持てるというのは初めてです。一見知事、鈴木市長に心から御礼申し上げたいと思っております。

私ども済生会、明治44年に創設されました。現在は職員が6万4000人、病院が81、その他福祉施設を合わせまして、施設として400余りの医療や福祉を行っている、いわば日本で一番大きい団体です。

明治 44 年に明治天皇が創設された趣旨は、生活に困っている人たちに対して支援をしなければいけない、それが済生会の本質です。もちろん明治 44 年の年といまとでは生活困窮者の内容が大きく変わっております。明治 44 年のときに比べれば、いまはもっともっと問題が複雑になり、解決が難しくなり、量が多くなってきているのではないかと考えています。

なかんずく、社会から孤立をしたり、社会から仲間外れにされたり、排除されたり、そのような問題が増えているのではないか。これこそまさに明治 44 年に明治天皇が済生会をつくられたときに、こういう問題も正面からやれ、やってほしいということでつくられたわけですから、済生会の本当の使命だと思っております。

そのために、令和2年7月にわれわれは「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」というものをつくりました。このような計画を全国的につくっているのは私ども済生会だけです。社会から排除されたり、孤立をしたり、取り残されたり、このような人たちに対して支援をし、地域の中で暮らしていただこうというかたちで始めたわけです。これが評価されまして、翌年度のジャパンSDGsアワードでは官房長官から表彰をいただきました。

その取り残されている、排除されている、孤立をしている、この中で一番大きい問題の一つはひきこもりだろうと思っております。先ほど一見知事からもお話がありましたように、内閣府の調査だと146万人と推計されています。でも、実際はもっともっと増えつつあるのではないでしょうか。

われわれ済生会として、このような問題に真剣に取り組んでいかなければいけない、その解決方法、有効な解決方法を一緒になって考えていかなければいけないと思っておりま

す。その点、ひきこもり問題についての先進県、日本で最も進んでいるのが、ここ三重県だろうと思っております。知事のリーダーシップによってこのような問題に正面から取り組んでいらっしゃるわけです。

ちなみに、われわれは 11 回このようなシンポジウムを開いてまいりましたが、知事がおいでいただいたのは今回が初めてです。それほど知事の意気込みを大変高く感じております。また、市長がこのようにいらっしゃったのも今回が初めてだろうと思っております。大変心強い思いがいたします。

ここで私どもはひきこもりについてどのように対応したらいいのか、済生会も学ばせていただきます。皆様も大変有益な情報、知識が得られるだろうと思います。このようなシンポジウムになるようお祈りいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。